

絶滅危惧種の保護・繁殖、及び外来種の駆除・利用

綱島千恵子／中村天奏／里西颯太

所属：大阪府立枚方高等学校生物飼育部

1. 社会的意義(問題意識)

近年、土地の開発や整備が進み、自然環境や生態系の破壊(外来生物問題、化学物質による生態系への悪影響など)が問題視されており、加えて様々な要因から里山の荒廃が進行、伴い絶滅危惧種に指定される生き物が増加している。こういった現状を改善していく為に枚方高校生物飼育部が行っている、研究や実践について報告する。

2. ねらい

『持続可能な開発目標』を踏まえて地域の自然環境、生態系を保護し、人と自然環境とが共存する社会を創ること。

3. 具体的な方法(手法)・結果(分析)

◆絶滅危惧種の保護・繁殖

◎カワバタモロコ(環境省絶滅危惧種ⅠB類 淡水魚)

用水路、ため池等に生息しており、古くから人間との関わりがある。

2017年に20匹採集。2019年に30匹の産卵飼育に成功し、地域の自然保護団体の方々と保護池を作る計画が発足。2020年、2021年と繁殖成功し現在は校内水槽にて約200匹を飼育。

大学と連携して遺伝子解析を行い、放流することを視野に入れて繁殖活動中。

◎ヤマトサンショウウオ(環境省絶滅危惧種Ⅱ類)

2017年に成体ペアを採集し繁殖成功後、6匹を放流。2019年には大阪自然環境保全

協会の方の協力を得て幼体及び卵のうを保護、15匹の放流に成功。2020年度も42匹の放流に成功した。現在は幼体成体合わせ、計178匹を飼育。

結果として、採集地では卵のうが安定して観察できるようになってきている。

◎オヤニラミ(環境省絶滅危惧種ⅠB類 淡水魚)

今年5月に産卵し、6月に32匹孵化、現在4匹生存。特定地域での個体数増加の一助となれるよう産卵、孵化、成長過程をデータとしてまとめている。

◆外来種の駆除・利用(アメリカザリガニ・カダヤシ)

両者とも学校周辺の用水路に生息しているものを駆除し、冷凍して飼育している生き物の餌として利用している。ただしカダヤシの持ち運びについては、環境省『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』に基づき、生きた状態での移動は行っていない。

4. 今後の課題

- ・これらの活動の継続と、関連する情報の発信。様々な知識の習得。
- ・昆虫食や野草食、外来種食等の活動の拡大。